

新公立病院改革プラン 補足説明事項

策定した新公立病院改革プランに記載されている地域医療構想を踏まえた役割に加え、当構想区域の医療需要や現状の病床稼働率等を踏まえてもなお公立病院において医療を提供する必要があるかどうか、民間医療機関との役割分担を踏まえ公立病院でなければ担えない分野へ重点化されているか等、公立病院でなければ担えない分野等に関して補足する内容について、掲載しています。

【愛知県がんセンター中央病院】

- ・当院は都道府県がん連携拠点病院であり、高度で先進的ながん医療を提供するだけでなく、県内全域の医療従事者を対象にがん医療に関する研修会を開催し、愛知県のがん医療の均てん化及び質の向上を行う役割を担っている。
- ・平成 29 年度は、がんゲノム医療をけん引する高度な機能を有する「がんゲノム医療中核拠点病院」と連携して遺伝子パネル検査等を行う「がんゲノム医療連携病院」に選定されており、平成 30 年度には、高度の医療の提供、高度の医療技術の開発及び高度の医療に関する研修を実施する能力等を備えた「特定機能病院」の指定申請を行うこととしているなど、今後とも、より高度で専門的ながん医療を担う役割を果たしていく。
- ・総務省が策定した「新公立病院改革ガイドライン」では、公立病院に期待される主な機能の具体的例示として、県立がんセンター等地域の民間医療機関では限界のある高度・先進医療の提供が挙げられている。

【名古屋市立東部医療センター】

当院は、2 月に指定された救命救急センターとして、また、市内唯一の感染症病棟を備えた第二種感染症指定医療機関として、プラン記載の「民間医療機関による提供が必ずしも十分でない政策的な医療」を担っております。現在、新病棟の整備を進めておりますが、整備後も感染症病棟数 10 床を維持し、引き続きその役割を担ってまいります。

前出の新病棟は、平成 31 年度中の開棟を目指して整備中ですが、同一敷地内での建て替えのため、駐車場の狭隘化、患者動線の複雑化など様々な制約があり、患者数等の指標で現状とプランとの間に乖離が生じています。しかし、新病棟開棟後には確実にプランの達成が見込まれますので、現状の把握においては、この点をお含みおきください。

【名古屋市立緑市民病院】

- ・救急医療、災害・感染症等発生時の医療といった政策的医療
- ・がん、心臓血管疾患、脳血管疾患といった高度・専門医療
- ・特に実施すべき医療機能等は次のとおり
 - ・内科における第二次救急医療の積極的な実施
 - ・災害発生時における市地域防災計画に基づく災害医療活動拠点としての役割
 - ・感染症等の発生時における市民の健康危機への対応
 - ・地域のニーズを踏まえた特色のある医療の実施

公的医療機関等 2025 プラン 補足説明事項

公的医療機関等 2025 プランに記載されている地域医療構想を踏まえた役割に加え、当構想区域の医療需要や現状の病床稼働率等を踏まえ公的医療機関等 2025 プラン対象医療機関でなければ担えない分野へ重点化されているか等、公的医療機関等でなければ担えない分野等に関して補足する内容について、掲載しています。

【愛知県済生会リハビリテーション病院】

プラン 1 ④自施設の課題 末尾

「在宅復帰後の支援として、定期的にケアマネジャーとの懇談会を継続して実施していく必要がある。」

【名鉄病院】

泌尿器科では手術支援ロボット「ダ・ビンチXi」を用いた手術を行っているほか、婦人科と泌尿器科にまたがる分野の疾患に対応する「ウロギネセンター（女性泌尿器科）」を開設して、高齢者に多くみられる「骨盤臓器脱」の治療について、日本有数の実績を上げております。

「関節鏡・スポーツ整形外科センター」では、名古屋市立大学の関節鏡拠点病院として、特に肩関節・肘関節に対する関節鏡手術を最新の手術方法にも対応しながら実施しております。

また、高齢化の急激な進展に伴って、今後益々増加することが見込まれる認知症疾患に対し、当院では「認知症疾患医療センター」を開設しております。このセンターは、名古屋市から指定されて機関であり、名古屋市内には3箇所のみ、一般病院では唯一の存在であり、他の疾患をお持ちの認知症患者さんの治療ができるのも特徴のひとつです。認知症外来の積極的な受け入れや、「認知症ケア加算」制定以前から院内認知症ケアチームの活動に加え、他の医療機関や施設などとも積極的に連携して勉強会などの啓蒙活動を行っています。

そのほか、予防医療への取組として、「予防接種センター」を開設しております。このセンターは、一般的なものから発展途上国への海外渡航などにも対応したワクチンを用意する愛知県内有数の機関で、実際の接種に留まらず、相談受付や自治体職員も多く参加するセミナーも開催するなど、積極的に活動しております。

【愛知県青い鳥医療療育センター】

〔特徴〕（P4）

- ・重症心身障害児（者）及び肢体不自由児を対象とした医療・療育拠点である
- ・重症心身障害児（者）には、医療管理下での長期にわたる療養を提供する。
- ・肢体不自由児には、手術及びリハビリテーションの集中的実施により、ADLの向上や在宅復帰を目指す。
- ・障害児（者）を対象とした外来診療では、発達障害児の診療を多く実施する。

〔その他見直すべき点〕（P5）

- ・在宅で暮らす重症心身障害児（者）及びその家族の生活を支援するため、短期入所や通園の利用者の拡大を図る。

【中日病院】

当院の整形外科は、上肢外科、中でも手関節、手指の外傷、障害に特化した診療を行っており、名古屋、尾張地区より数多くの手術症例を依頼され、その治療を担っている。近隣の医療機関からの紹介患者数のみを見ても、毎月80－100名以上の紹介を受け、手術件数は大小合わせて年間800から900件を数える。その多くが適切な診断に基づき早期に入院、手術治療を施行しなくてはならない急性外傷、疾患であり、適正な周術期管理（術前管理、手術、術後管理、早期リハビリテーション）を要求される。

入院患者は一般病棟（10対1）の2割以上が手の外科センターの患者であり、広範な地域から来院される多数の症例に、より適切な医療を提供するために急性期病棟としての看護、医療レベルは必須のものであると考えている。

このように質の高い医療を行うことで、医師や理学療法士、作業療法士の学術集会でも評価を受けている。今後もこの臨床機能を維持することで地域貢献を果たし、さらには今後の医療の発展に貢献していくものと確信している。

【国家公務員共済組合連合会 名城病院】

12 ページ ③その他見直すべき点

2017 年 4 月に閉鎖した 5 階病棟の機能転換を図り、同プランにおいて掲げている「地域において担うべき役割」「今後持つべき病床機能」等、当院の目指す診療機能の更なる強化を進めていく。

- ・内視鏡センターの拡張による消化器疾患患者受け入れ強化
- ・第二リハビリテーション室の設置によるリハビリテーション体制強化
- ・総合健診センター拡張による検診受け入れ体制強化
- ・救急外来拡張による救急患者受け入れ体制強化
- ・入退院支援センター設置による、病病・病診連携強化

2025 プランにおける「地域において今後担うべき役割」「今後持つべき病床機能」に記載しているとおり、当院の持つ病床機能は、二次医療圏（名古屋・尾張中部医療圏）の地域医療構想において求められている病床機能に則していることから、引き続きこの病床機能の維持をするとともに、併せて「その他見直すべき点」に記載した対策をすすめていくことにより、さらなる診療機能強化及び稼働病床率を向上させ、地域において担うべき役割を明確化していく。

【国立病院機構 名古屋医療センター】

1. 当院が担う機能

〔救急医療〕（救命救急センター）・・・件数は29年4月～30年1月実績

救急搬送件数 7,349件（28年度 7,786件、名古屋市シェア 6.6%、Bブロック No.1）

脳卒中高度救命救急医療 t-PA 30件 脳血栓回収術 41件

急性心筋梗塞高度救命救急医療 冠動脈形成術（緊急）97件

CPA 患者受入 28年度 467件（シェア 20.8% 名古屋市内 No.1）・・・名古屋市消防データ

〔がん診療〕（地域がん診療連携拠点病院）

がん拠点病院がん登録件数 27年度 1,782件（愛知県シェア 5.5%）28年度 1,943件

※がんゲノム医療の推進（遺伝診療科、遺伝パネル、がんゲノム医療連携病院）

〔地域医療支援病院〕

連携医療機関 986 金鯱メーネット（名古屋医療センター地域連携診療情報システム）参加施設 78

29年度紹介率 81.4% 逆紹介率 90.1%

名古屋北部・尾張中部連携協議会運営

〔H I V医療〕

通院患者数 1,400名

〔先進医療／臨床研究〕

N K T細胞を用いた免疫療法 ほか 3件

臨床研究・治験とタイアップ（厚労省臨床研究中核病院整備事業）

〔難病〕

愛知県難病医療ネットワーク難病医療協力病院（名古屋医療圏・尾張中部医療圏）

2. 病床機能報告等

〔一般病床の稼働率等〕

29年度病床稼働率 85.7%（84.8%） 平均在院日数 14.4日（14.8日）※（）は前年度実績

〔29年度病床機能報告〕

高度急性期病床 590床、急性期病床 100床 ※今後もガイドラインに沿って見直していく

〔将来構想〕

病棟更新築を計画していく（時期を見ながら）

【名古屋大学医学部附属病院】

本院は、名古屋・尾張中部構想区域において、高度急性期・急性期医療に特化しており、本院でなければ担えない分野における代表的な例として、以下の事例が挙げられる。

〔がんゲノム医療中核拠点病院〕

先日、厚生労働省より「がんゲノム医療中核病院」の指定を受け、がんゲノム医療の実施に向けた体制整備を進めている。（「がんゲノム医療中核病院」は全国で 11 病院が指定を受け、東海・北陸地区では本院のみが指定を受けている。）

〔小児がん拠点病院〕

全国で 15 病院のみの「小児がん拠点病院」に認定され、「小児がん治療センター」のもとで東海・北陸地域の小児がん医療の発展に尽力している。（東海・北陸地区の拠点病院は本院と三重大学の 2 病院のみ）

〔心臓移植実施施設〕

「住所右心不全治療センター」が設置され、東海・北陸地区唯一の心臓移植実施施設に認定されており、移植医療に関する治療体制が整備されている。

〔臨床研究中核病院〕

臨床研究中核病院として新たな医療の開発を主導するとともに、患者申出療養制度においても、先導的実施施設として地域の協力医療機関を支援し、患者からのニーズに応じた国内未承認の医療を提供している。（全国で 11 の医療機関が認定されており、東海・北陸地区では本院のみ）

これらの事例以外にも最先端の医療を多数提供しており、名古屋・尾張中部構想区域の先進医療をリードしている。また、高度急性期・急性期医療への重点化は地域別入院患者数からも明確であり（名古屋市内からの患者は 43.56%、名古屋市外からが 40.04%、県外患者が 16.4%）、三次医療圏を超えた広域医療を展開している。

【名古屋第二赤十字病院】

40 ページ （8）国際医療救援・国内医療救援の推進 （以下、追加記載）

また、2019 年度には南海トラフ地震などの大規模災害に備えて、日赤愛知災害医療センター棟を建築する計画である。このセンター棟は、この地域に大規模災害が発生した時の災害対応の拠点となるもので、その機能は当院の災害対策本部だけではなく、日赤愛知県支部（東区白壁）に被害があった場合の代替本部機能をも担う。

40 ページ （9）遺伝子医療 （以下、追加記載）

上記の修正前遺伝学的検査（N I P T）の実施施設の承認を 2017 年 12 月に取得。遺伝学的検査を主に取り扱う臨床検査技師や事務員をスタッフチームに加え強化を担っている。

また、厚生労働省が 2018 年 4 月 1 日付けで指定する「がんゲノム医療中核拠点病院」のひとつである名古屋大学医学部附属病院の連携病院として体制を整え、申請の手続きを進めている。それに伴い、今後は当院でも個別で遺伝性主要関連検査を実施したいと考えている。

【名古屋市立大学病院】

- 当院は、大学病院であり、地域の中核的医療機関として、高度急性期病床としての役割を担うとともに、がん・脳卒中・心筋梗塞などをはじめとする5大疾病や、救急医療・災害医療などの政策医療についても積極的に取り組んでいる分野である。
- また、名古屋市が設置する医療機関（東部医療センター・西部医療センター等）をはじめとする地域の医療機関等との連携や、大学病院である教育研究機関として優れた医療人の育成や臨床研究の分野についても取り組んでいる。
- 3次救急をはじめ救急搬送件数が増加しており、今後も高齢化に伴う救急搬送件数の増加が見込まれることから、より重症な救急需要の増加に対応していく必要がある。また、愛知県の人口当たり救急科専門医数はほかの大都市と比較しても少ないため、今後の需要に対応できる救急科専門医の育成についても教育機関である当院が担う分野である。

【名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院】

1. 構想区域（名古屋・尾張中部構想区域）の課題として、回復期機能の病床確保があるが、将来（2025年度）においても病床80床を回復期機能として継続し、特に5疾病のうち、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患に対し、機能の回復及び生活の場への復帰ができるよう、他職種による集中的、包括的な回復期リハビリテーション医療の提供を担っていく。
2. 附属病院入院前及び早期より、退院後の障害者支援施設への移行による支援継続を含む相談支援をすることにより、単なる在宅復帰に止まらず、退院患者の就労をも見据えた社会復帰への支援を行うため、一貫したリハビリテーションを提供する施設としての役割を担っていく。＜補足説明資料＞ プラン7ページ参照
3. リハビリセンターは、愛知県から「高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業」の県内唯一の支援拠点機関として指定を受けているが、附属病院は、支援全体の始まりの部分である「診察」「検査」「医学的訓練」を実施し、社会復帰支援へつなげる重要な部分を担っている。また、社会復帰後の定着に問題がある場合も、医学的見地からの支援の見直しを行い、高次脳機能障害に対する支援を円滑に実施するための機関としての役割を担っていく。＜補足説明資料＞ プラン8ページ参照

【名古屋掖済会病院】

・救急医療について

救急医療においては、2016 年度の救急車搬入台数は 8,281 台であり、その内入院となった数は 3,195 人である。ウォークインの救急患者数は 29,785 人であり、名古屋市内はもとより、市外からの患者も受け入れ、名古屋市南西部の中核病院として 24 時間 365 日、断らない救急医療体制を整備している。

・地域の高度急性期病院としての地域医療連携

名古屋市中川区における高度急性期病院として、名古屋二次医療圏を把握し機能分化を推進するため地域の医療機関との連携を図っている。具体的には、病病連携においては地域中小病院 65 病院、病診連携においては地域開業医・クリニック 446 施設と連携を結んでいる。2016 年度の紹介患者数は 18,829 件、逆紹介患者数は 17,905 件であり、地域医療支援病院での計算式では紹介率 61.37%、逆紹介率 94.80%であった。

また、愛知県がん拠点病院として検査や手術・抗がん剤治療、さらには緩和ケア病棟に至るまでの診療体制を提供している。緩和ケア病棟においては、入院患者のうち地域医療機関からの紹介入院は、46%を占める。

・先進医療について

日々進化し続ける医療水準向上のため、また先進医療の一環として、PET-CT、放射線治療装置、320 列 CT、X 線アンギオ、乳房 X 線撮影装置、3 テスラ MRI 装置、体外式衝撃波結石破碎装置等を新たに導入し、地域基幹病院として高度医療提供体制向上を図っている。

・地域包括ケア病棟開設

今後の医療の機能分化の推進を目的として、47 床の「地域包括ケア病棟」を開設している。これは、自院はもとより他病院からの急性期を脱した患者を受け入れるポストアキュート機能、もしくは在宅等から亜急性期として直接受け入れるサブアキュート機能の両面から、今後の必要性は高いとして開設、運用している。

【独立行政法人労働者健康安全機構 中部労災病院】

当院は公的医療機関として、勤労者の職業生活を医療の面から支えるという労災病院グループ共通の理念のもと、以下の政策医療に取り組んでいる。

○治療就労両立支援モデル事業（P5, P6）

労災病院として、がん、糖尿病、脳卒中（リハ）、メンタルヘルスの4分野について、治療と就労の両立支援の実践により事例収集を行っている。当院は、特に糖尿病分野の中核施設として、他の労災病院と連携し、支援事業の集積・分析・評価等に取り組んでおり、医療機関向け支援マニュアルを作成するとともに、全国の医療機関への普及活動を行っている。

○労災疾病等に係る研究（P6）

現在も多発している労働災害、及び産業構造・職場環境等の変化に伴い、勤労者の新たな健康問題として社会問題化している疾病について、モデル医療やモデル予防法の研究・開発、普及に取り組んでいる。

○行政への協力（P6）

労災医療に豊富な知見を有する当院の医師を地方労災医員、労災協力医、職業病相談員等として行政機関に派遣している。

これらの政策医療を継続的かつ安定的に実施していくためにも、臨床技能の維持・向上や、医師等の確保・養成、必要な検査・治療機器の整備、さらには地域医療水準や災害時対応能力の向上という観点からも、県の医療計画のもと5疾病5事業を中心とした一般医療を実践していく必要がある。

【独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院】

地域がん診療連携拠点病院として名古屋南部のがん治療の中核的な役割を担う。

救命救急センターとして地域の3次救急に対応。

地域医療支援病院として地域医療体制の構築に貢献。

その他の分野

- ・透析センター：地域の病院の3次的な役割を担い、入院を要する患者に限定して透析を行っている。
- ・熱傷診療：本邦最大数の重症熱傷患者を受け入れている。
- ・小児の心疾患の診療：新生児から手術を実施し、東海地区最多の症例数。カテーテル治療も全国トップ10に入る症例数。

【名古屋市厚生院】

当院は、附属病院、特別養護老人ホーム及び救護施設で構成される全国的にも数少ない、高齢者を対象とした医療と福祉の複合施設となっています。

当院の役割・現状は、当プランP6及びP9に記載しているとおり、併設の特別養護老人ホームや救護施設からの入院患者については急性期の疾患に対し、主に「急性期機能」として対応しています。

また、在宅からの入院については、元の自宅へ戻ることができるよう医療やリハビリを提供し、主に「回復期機能」としての役割を担っています。

特に「回復期機能」については、地域の在宅医と連携を深め、積極的に在宅療養患者の受け入れを行っています。

具体的には、在宅療養中の患者が肺炎を起こしたり、食事が摂取できなくなった場合に一時的な入院治療を行い、再び在宅に復帰できるように在宅医や介護支援専門員と共同で退院に向けたカンファレンスを実施する等、住み慣れた地域で生活できるよう支援を行うことにより、地域包括ケア病床としての役割も担っています。

また、在宅からの入院患者で、家族が病気や障害を抱え、本人以外にも支援が必要な場合には適切な支援機関と連携を図る等、在宅療養者を支える役割も担っています。このような在宅療養支援入院の患者数は、平成27年度は14名、平成28年度が19名、平成29年度は1月末現在で28件と、年々増加している状況です。

さらに、当院では介護保険による短期入所療養介護も実施しており、介護者のレスパイト対応を行うとともに、利用者の体調急変時には一般病床で迅速に対応する等、医療・福祉・介護が一体となったサービスを提供しており、名古屋・尾張中部構想区域で不足している「回復期機能」の役割の一端を担っています。

病床機能報告では、病棟単位で機能を報告することとなっているため、当院は「慢性期機能」の届出を行っておりますが、実際の機能としては以上のように、急性期や回復期の機能も担っております。

このように、当院は医療を中核とし、それぞれの機能を相互に活用し、医療・福祉・介護サービスを一体的に切れ目なく提供しています。

また、経済的に困窮し、親族からも支援を期待できない医療的ケアが必要な方等、他の施設では受け入れが困難な方を多数受け入れているセーフティネットとしての役割も果たしています。

こうした現状の中、現在名古屋市では、今後の果たすべき役割やそれに基づく運営手法など必要な事項について検討していく、という取組方針のもと、「名古屋市厚生院のあり方検討会」を開催し、今後の当院のあり方について検討しているところです。

【名古屋記念病院】

<地域医療支援病院と急性期医療>

当院は地域医療支援病院として、「紹介患者：16,128 名」を受け入れており、紹介率関連も「紹介率：76.0%」「逆紹介率：79.7%」（※2016 年度実績）も高い水準となっております。また、急性期病院として、手術室にて実施する手術件数は「2,721 件」で、その内全身麻酔手術も「1,035 件」（※2016 年度実績）を実施しています。「救急搬送患者数：4,308 名」（※2016 年度実績）を受け入れています。地域のかかりつけ医で対応が困難な患者の受け入れだけでなく、地域住民のための急性期医療の提供や救急医療の受け入れにも力を入れており、地域医療の中心的な役割を担っていきたいと考えています。

<当院の病床機能>

天白区及び近隣地域の医療資源を鑑みると、当院は急性期医療を担う病院としての役割を果たしたいと考えています。これは、医療従事者のマンパワーなどの観点から、天白区内において急性期医療を担うことができる医療機関が、現実的に当院しか存在しないためです。

当院を運営する「社会医療法人 名古屋記念財団」には、当院とは別の病院として「新生会第一病院」があります。2018 年 5 月に当院と同じ天白区内に新築移転をしますが、この移転時に当院の許可病床のうち「48 床」を移設します。

この移設する 48 床の許可病床は地域医療構想において不足が指摘されている「回復期」病床に充てられる予定です。今回の許可病床移設によって、回復期不足の問題解消に寄与するだけでなく、同一法人内で急性期と回復期や慢性期の機能を有することで、効率的な地域医療の提供を行うことができると考えます。